

# 発達障がい児の理解と対応

## 心療科（児童精神科）の疾患

### 発達障がい

- ① 広汎性発達障がい（PDD）  
（アスペルガー症候群・高機能自閉症を含む）
- ② 注意欠陥多動性障がい（ADHD）

### 情緒障がい

感情障がい（うつ）・強迫性障がい・解離性障がい（虐待）・統合失調症（心身症）…

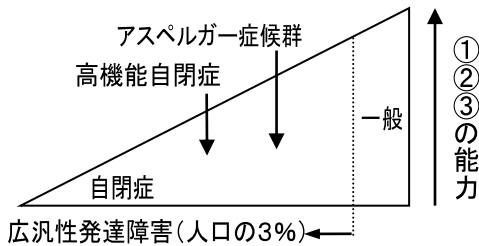
## 広汎性発達障がいとは

### ウイングの3つの能力

- ① 社会性の能力
- ② コミュニケーションの能力
- ③ 想像力の能力とそれに伴う行動の能力

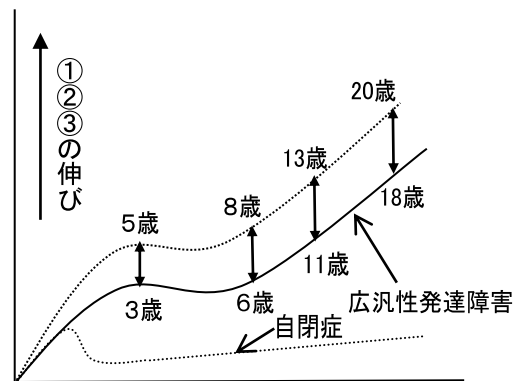
の発達が、何らかの原因によって妨げられる脳の障がい

## 自閉症スペクトラムの概念



\*一般（健常）と言われる人もスペクトラムの一つの段階に過ぎない。誰しもが多かれ少なかれ苦手さをもっている。

## 広汎性発達障害の能力の伸び



\*20歳と18歳の社会性の違いはほぼなく、それは個性と呼ぶべき

### ① 社会性の障がい

- ・年齢相応の友達関係を作れない（年上・年下としか遊べない）
- ・周囲に配慮できず、自分中心の行動をする
- ・人から関わられたときの対応が場に合っていない（人見知りになさ過ぎる）
- ・要求があるときだけ自分から人にかかわる（人の話は聞いてない）
- ・言われたことを場面に応じて理解するのが難しい（融通が利かない）

## ② コミュニケーションの障がい

- ・難しい言葉を使うが、その意味をよくわかってない
- ・大勢の会話では、誰が誰に話しているのかがわからない
- ・どのように、なぜ、といった説明ができない
- ・抑揚の乏しい不自然な話し方をする
- ・人の気持ちや意図がわからない
- ・冗談や皮肉がわからず、文字通り受け取る

アスペルガーは目立ちにくいから軽い

## ③ 想像性の障がい

- ・(自閉症よりレベルの高い) こだわり  
特定のテーマに関する知識獲得に没頭 (駅名・地名など)  
何かにつけ1番でないと気がすまない
- ・パターン化された遊びと行動  
よく知っているテレビのシーンを再現
- ・こだわり+パターン  
予期不安が強い・大きな変化に弱い  
→ 普段通りの状況や手順が変わると混乱する  
→ (学校では) 行動が落ち着かない、不注意、場に応じた行動が出来ない  
→ 行事の季節に荒れる  
→ 長期休業明けが弱い
- ・過去のいやなことを思い出して不安定になる
- ・チック症状、心身症がある

## ADHDの症状のイメージ

- ・おしゃべり
- ・話をよく聞かない
- ・落ち着きがない
- ・物忘れが多い
- ・すぐに気が散る
- ・突然暴力をふるう
- ・順番を守れない
- ・突然走り出す
- ・人のじゃまをする
- ・先生や両親から言われたことをするのが苦手
- ・静かに遊べない

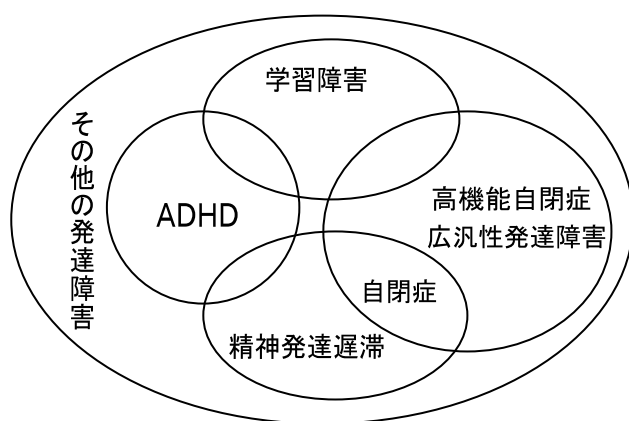
## ADHD診断基準 (抜粋)

1. 上記の症状が7歳未満に存在し、障がいを引き起こしている。
2. これらの症状が2つ以上の場所 (学校または職場と家庭等) で存在する。
3. 社会的、学業的または職業的機能において、臨床的に著しい障がいが明確に存在する。
4. その症状は「広汎性発達障がい」「統合失調症」その他の「精神障がい」の経過中にのみ起こるものではなく、他の精神疾患ではうまく説明されない。

## 学習障がい

- ・基本的には、全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの特定の能力の習得と使用に著しい困難を示す、さまざまな障がい。
- ・単なる勉強嫌いや知的障がいと間違われやすい。
- ・学習以外の部分にも注目することで、学習障がいと知的障害のどちらであるかを判断する。
- ・それぞれの特徴に適した勉強法、トレーニングなどの研究が盛んにおこなわれている。

## ADHDと学習障がいと広汎性発達障がい



広汎性発達障がい+ADHDの併記は不可  
(基本的に)

## ADHDと広汎性発達障がいの識別

### ADHD

- ◆わかつちやいるけどやめられない  
↑  
怒りや好奇心などの感情のコントロールの困難さ
- ◆人なつっこくて人から関わられるのが好き
- ◆生まれてからずっと  
多動・不注意・衝動性が続いている
- ◆家でも学校でも外出先でも  
多動・不注意・衝動性が続いている

### 広汎性発達障がい

- ◆わからないからやめられない  
↑  
社会性の障がいのため  
周囲の状況がつかめない
- ◆孤立を好む or 一方的な関わり方
- ◆幼稚園 or 小学校に通い始めてから  
多動が目立つようになった
- ◆学校では多動や衝動性が目立つが  
家では別人のように落ち着いている

## アスペルガー症候群

社会的なコミュニケーションや他の人とのやりとりが上手く出来ない、興味や活動が偏るといった特徴がある。人の心を推し量り理解することが苦手で、仕草や状況、他人の微笑みを見ることは出来ても、

その意味(はにかみ・苦笑い・泣き笑い)を理解し、相手の伝えようとしていることを汲み取ることができない。

- ・視線が合わないことが多く、アイコンタクトが困難である。
- ・反対に他人にとって不快に感じるくらいに、じっとその人の目を見つめてしまう。
- ・感情に対し反応をするが、何に対して反応するかは常に違っている。
- ・他人を理解し、自分の感情を表情や雰囲気等で他人に伝えることが苦手。
- ・発音と同時に目立たなくなると言われている。
- ・程度は各人によりさまざま。
- ・自分の興味があることにだけ、大人でさえ出来ないような精緻で微細な作品を創作したり、大学教授のような知識を持っていたりする場合もある。
- ・アスペルガー症候群にあった分野で仕事をしている人も多い。(芸術家やプログラマー、NASA 職員などにも多数いる。アインシュタイン、ニュートンもアスペルガー症候群だったと言われている)

## 関わり方の工夫

社会性・コミュニケーション・想像性の苦手さがあるのだからそれを他の生徒よりも詳しく丁寧に教えていくのが基本

- ★目を合わせてからかかわる  
視覚優位の情報収集
- ★予定は明確に  
急な変更は苦痛
- ★ルールや指示は明確に  
暗黙のルール、曖昧、皮肉、言外の意味は理解不能
- ★反応が出るまで待つ  
3分間待つ勇気・せかさない
- ★言葉がけを工夫  
小さな声で、短く、肯定的形で話しかけること
- ★叱り方の工夫  
大声でくどくど叱るのは逆効果  
→ 内容を理解できず、「怒られた」気持ちのみ残る  
短く、低く、きっぱりと
- ★必ず「ほめる」  
よい面をみつける
- ★できるだけポジティブに接する
- ★人から教わる態度を身につけさせる  
無関心、無反応の意味を教える  
協調性、人間関係の意味を教える
- ★こだわり、関心事を矯正するより何かに生かす方向で考える